



考古学財団

かみかさや わだうち
上粕屋・和田内遺跡 (伊勢原市No. 206)

所在地 伊勢原市 2993 番地
期間 平成 31 (2019) 年 4 月 1 日～
 令和 2 (2020) 年 2 月 17 日
調査面積 1,534㎡
担当者 小川岳人・馬淵和雄・中村淳磯
調査概要

調査は一般国道 246 号 (厚木秦野道路) 建設事業に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査として実施しました。

遺跡は、上粕屋扇状地の北縁に面した丘陵裾に位置し、渋田川支流が開析した谷に面します。

谷を挟み南側の台地上には上粕屋・秋山上遺跡と秋山遺跡、北側の台地上には西富岡・長竹遺跡が、また眼下の渋田川支流の沖積地には上粕屋・和田内下遺跡が広がっています。

本遺跡は丘陵全体が該当し、これまで県道建設工事に関連する調査や新東名高速道路建設事業に伴う調査、厚木秦野道路建設事業に伴う調査が数次にわたって行われてきました。今回調査区は第 4 次調査 9 区に該当します。調査は平成 31 年 1 月に着手した平成 30 年度調査からの継続となります。

平成 31 年度の調査は、中世～近世、平安時代末～中世、奈良・平安時代、弥生時代末～古墳時代、縄文時代、旧石器時代の各時代にわたる遺構・遺物を発見しました。

(1) 中世～近世 調査区の外周をめぐる大小の溝状遺構、また土坑・ピットを発見しました。溝に囲まれた近世の屋敷地があったものと思

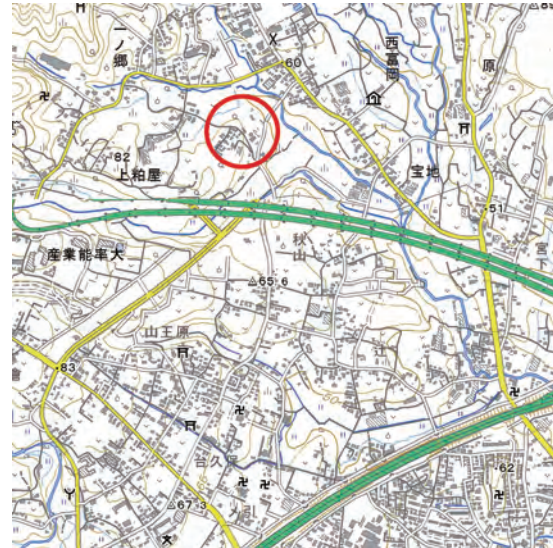


図 1 調査地の位置 (1/25000)

われます。注目されるのは幅 4 m が深さ 2 m ある K6 号溝です。K(近世)溝と呼称しましたが、宝永火山灰が降った時には既に埋没していた遺構で、その所属時期は戦国時代以前に遡るものと思われます。未知の城館跡か、近世以前、当該地に所在した極楽寺に関連するものと思われます。

(2) 平安時代末～中世 調査区の南側で、12 世紀頃の渥美産の大甕が据えられた土坑 1 基を発見しました。また、周囲からは同じ時代の



写真 1 K6 号溝 (見学会資料から)

ピット群も発見されています。この時代は、粕屋周辺を支配していた糟屋氏によって、前述の極楽寺が創建されたとされる時期です。これらの遺構は創建期の極楽寺と関連するものかもしれません。

(3) 奈良・平安時代 奈良・平安時代の遺構としては竪穴住居跡4棟、掘立柱建物跡6棟を発見しました。これらの遺構は、その軸線をほ



写真2 渥美産大甕が据えられた土坑(見学会資料から)

ぼ北東(掘立柱建物跡のすべてと竪穴住居跡1棟)ないしは北西(竪穴住居跡2棟)に揃えていて、相互に強い関連性を持ちながら営まれたことが想定されます。あるいは「居宅」と呼ぶべき性格を有するものかもしれません。発見された掘立柱建物跡のうち中央の3棟は、緩い斜面を段切り状に造成した場所に構築された、溝持ちの建物跡で、同一箇所を繰り返し構築され、また柱穴も他の掘立柱建物跡より規模が大きく、発見された遺構群の中心的な役割を果たしたことが想定されます。

(4) 弥生～古墳時代 調査区のほぼ中央および南端で、弥生時代末～古墳時代初頭に属する竪穴住居跡2棟を発見しました。遺跡の所在す

る眼下の沖積地では、遺構とほぼ同じ時代とみられる水田跡が発見されています。発見された竪穴住居跡との関連性が注意されます。

(5) 縄文時代 ローム層上面で、陥し穴を含む15基の土坑を発見しました。陥し穴はそのすべてに地滑りの跡が観察され、壁面・底面が数段にわたってずれた状態となっていました。

(5) 旧石器時代 今回調査した範囲は、縄文時代の地層が形成される以前に、大規模な地滑りと斜面の崩落が起きているようで、ローム層のうちL1S～L2層が確認出来ませんでした。これらに相当する位置にあったB2層よりも上のローム層は、崩落して再堆積したものと考えられます。そのため調査区内一部では、ローム層上面近くですでにB2層よりも下の地層が確認できたのです。調査区全体に調査坑を掘削して確認した結果、調査区北半のB2層下層相当から大きく二つに分かれる旧石器時代遺物の集中と礫群を確認しました。二つの遺物集中で、ブロックは最低でも10箇所以上、礫群は7基以上あるものと思われます。石器は切り出し型のナイフ形石器・角錐状石器・スクレイパー・敲石・磨石などからなり、横剥ぎの石材から製作された国府型ナイフ1点が含まれ注目されます。

(小川岳人)

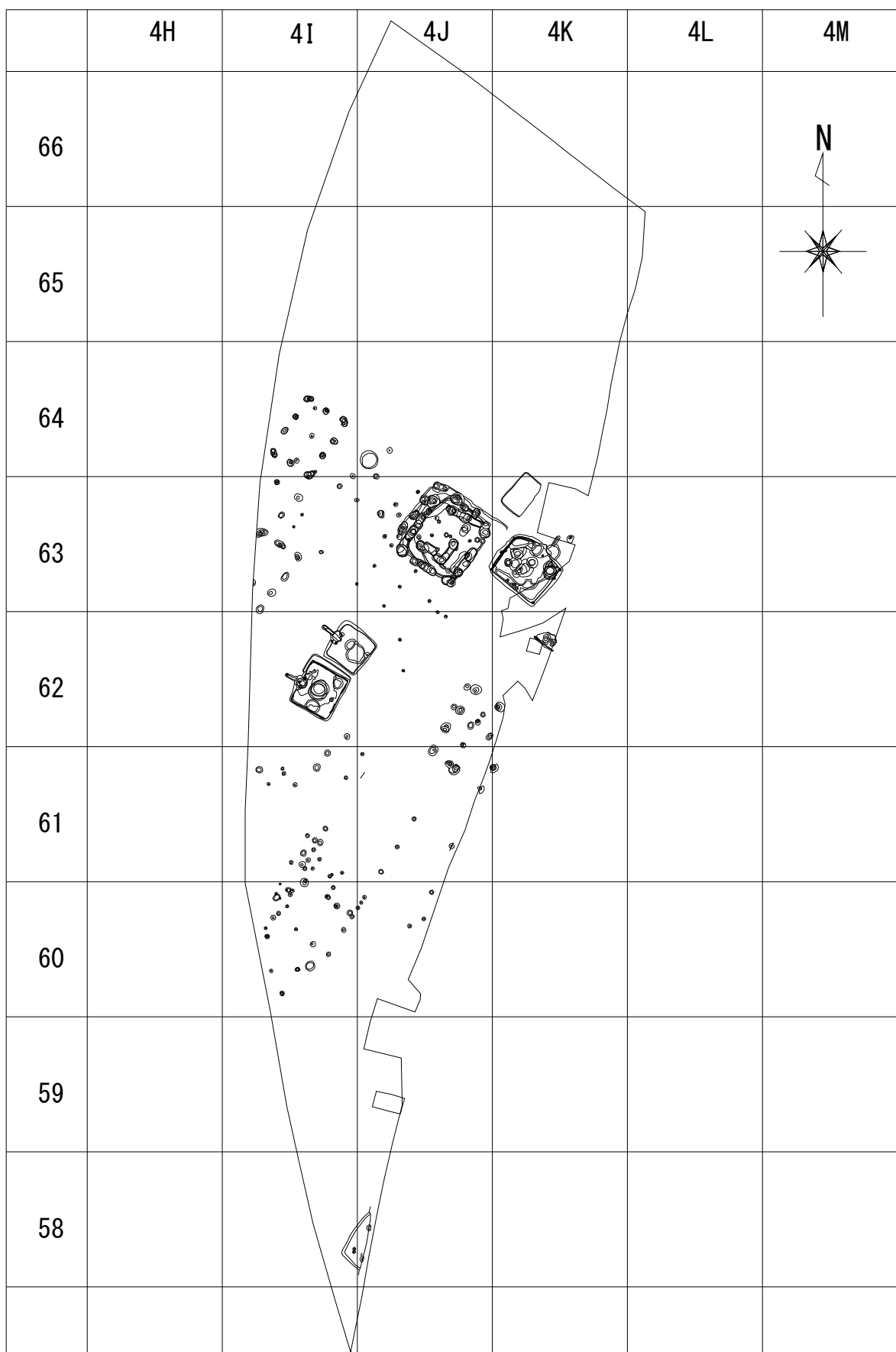


図2 上粕屋・和田内遺跡9区 奈良・平安時代遺構配置図

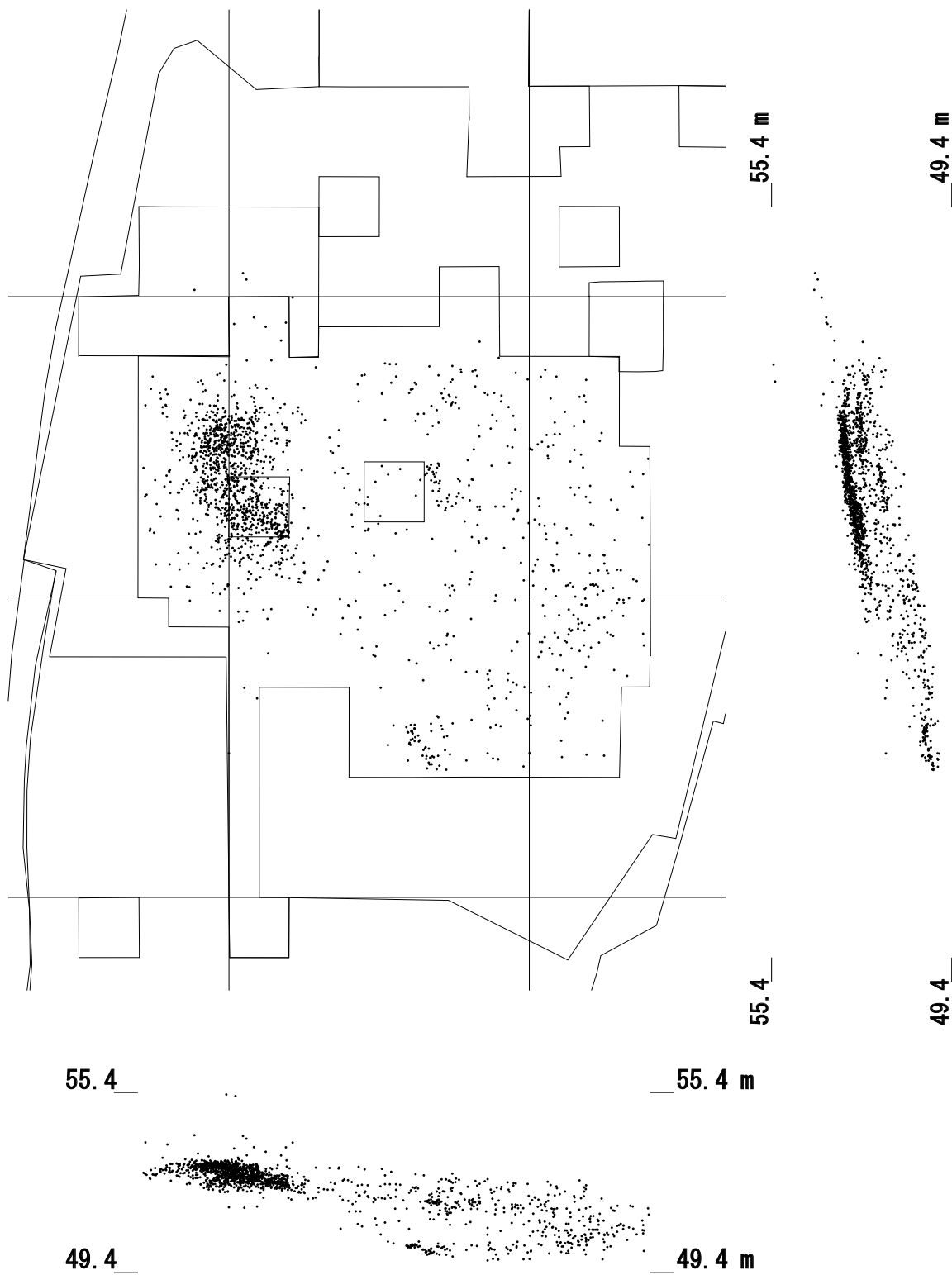


図3 上粕屋・和田内遺跡9区 旧石器時代遺物分布図